

## スクラム 医療の場でも

## 女子ラグビー選手 コロナ対応奮闘

病院職員らで構成するラグビーの女子チーム「横浜TKM」の選手たちが、新型コロナウイルス感染症に対応する医療現場で奮闘している。早朝から緊張感を



来訪者の検温を行う  
横浜TKMの選手

強いられる中で働き、午後からの練習で腕を磨く毎日だ。16日には日本ラグビー協会の森重隆会長が激励に訪れ、慰労金を贈った。

チームは2011年に発足し、医療法人「横浜未来ヘルスケアシステム」（横川秀男理事長）が運営する。選手の大半は病院や介護施設などで勤務。感染が拡大してからは、来院者の検温や施設の消毒、ゴミ袋を利用した防護服作りなどに励んできた。

12年に加入したWTB鈴木育美は現在、戸塚共立第1病院の医事課で、フェースシールドを着けて受け付

け業務を行う。感染の疑いがある患者が来院した際、「詳しく症状を聞き、無防備に病院内に入れないよう心がけている」と話す。

ラグビー経験者の横川理事長は、「ラグビーと同じで病院もポジションごとに役割があり、チームプレーが大事」と語る。仲間のために体を張るラグビー精神は、医療現場でも生かされている。